2010 年 5 月 15 日 Sustainable Archives for Media and Cultures 研究会

大阪市立大学文化交流センター

エスニック文化／ローカル文化の展示と体験

田原範子（四天王寺大学）

■訪問先

アフリカンアートミュージアム	2010/4/11	山梨県北杜市長坂町中丸 1712-7 2010 年 4 月 4 日
白浜アドベンチャーワールド	2010/4/25	和歌山県西牟婁郡白浜町堅田 2399 番地 1977 年 9 月　　動物展示、ケニア号
太地町立くじらの博物館	2010/4/24	和歌山県東牟婁郡太地町太地 2934 の 2 1971 年 4 月 2 日
リアス･アーク美術館	2008/10/11, 2009/11/22	宮城県気仙沼市赤岩牧沢 138-5 1994 年

■日本における「アフリカ」by インターネットミュージアム

（http://www.museum.or.jp/　2010 年 5 月 13 日参照）

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（東京都府中市）

展示場と文献資料室

太鼓の里資料館（石川県白山市）

アフリカ、アジアなどの打楽器を常時 100 点程展示

アフリカンアートギャラリー（静岡県伊東市）　閉館中

アフリカ伝統の美術品を専門に展示する、日本で初めての美術館。

浜松市楽器博物館（静岡県浜松市）

アジア・アフリカ・アメリカ・オセアニアの民俗楽器

鳥羽水族館（三重県鳥羽市）

巨大なアフリカマナティー

アフリカ仮面美術館（長崎県長崎市）閉館中

九州自然動物公園（大分県宇佐市）

アフリカンサファリでは野生動物が自然に棲む事ができる「生態環境の再現」

＊過去にあった有名な「アフリカ」

豊島園　アフリカ館 1969 年完成～1998 年解体

動物の骨／踊る native/吠えるライオン？

■日本における「アフリカ」

展示：博物館、美術館、動物園、水族館

体験：サファリパーク、飲食店（カラバーシュ、アサンテ）

販売：ミュージアムショップ、エスニックショップ

■「エスニック／異文化」展示の通時的文脈　[クリフォード、吉田]

「異文化」で生み出された器物

「珍品」→「民族誌資料」→「美術作品」

器物(artifact)／美術(Art）＝民族学博物館／美術館

1920-30 年代　　「プリミティブ・アート」の発見

ニューヨークの近代美術館(MOMA) 1935 年「アフリカ・ニグロ美術展」

「近代美術館」における「ニグロ美術」の初めての展覧会

「アフリカ美術の傑作」と称される作品

九割以上が仮面や彫像、木器などの木製品

それらの作品は、むしろこの展覧会に出品されたことで「アフリカ美術の傑作」となり、その後の「アフリカ美術」のコレクションのモデルとなったのである [吉田 2003 p.62]。コンテクストをはぎとることこそ、「美術」としての地位を保証する唯一の方法であるとでもいうように、至るところで同じ操作がくりひろげられた[吉田同上書 p.67]。

「作品」とよびかえられたそれらの仮面や彫像／一点一点が離れた展示／スポットライト／衣装や飾りから切り離し木製の顔の部分だけを壁にかけた「仮面」／祖先の祭壇から切り離された像＝「祖先像」／民族名の記載／使用用途の無記載

1980 年代　　博物館や美術館のいとなみを批判的に検証しようという動き

背景：人類学の危機 writing culture shock『文化を書く』『文化批判としての人類学』

ニューヨークの近代美術館(MOMA) 1984/9/27~1985/1/15

「20 世紀美術におけるプリミティヴィズム――『部族的』なるものと『モダン』なるものとの親縁性」展

クリフォードの批判　世界を収集する西洋近代のあくなき欲求と力の展示

美術史学／人類学、芸術／文化という近代的制度の再生産

＊「親縁性」という概念　←　虚構、意図的に構成されたもの

自然主義的なイフェやベニンの彫像／ハイブリッドな造形（「不純な作品」）の排除

＊「アート（芸術)」　←　常に変容する文化的カテゴリーのひとつ、西洋による分類上の転換

＊「第 3 世界のモダニズム」の捨象　→　あいまいな過去（19-20 世紀）と純粋に観念的な空間

メトロポリタン美術館等 1984~86

「テ・マオリ――ニュージーランドのコレクションにみるマオリ美術」展

マオリの代表者たちによる儀礼の上演

ヒリニ・モコ・ミード「テ・マオリ展をニューヨークで開催することによって、われわれはマオリの社会の文化を世界にむけて送り出した」

パオラ・タプセル「マオリの『美術』は、その所有者の子孫による儀礼を通じて、ふたたびマオリの『タオンガ（宝物)』にもどり、新たな生命を吹き込まれた」

1990 年代以降　文化遺産の売買の禁止の動き　文化遺産奪還の動き

「自文化」展示／観光資源としての文化遺産の価値の再認識

With the postmodernism, there is a re-emergence of the vernacular, of representational forms, with the use of pastiche and playful collaging of styles and traditions. In short, there is a return to local cultures, and the emphasis should be placed upon local culture in the plural, the fact that they can be placed alongside each other without hierarchical distinction [Featherstone,1995 p.96].

■日本における「ローカル／地域社会」の通時的文脈

Local culture

旧知の人びと／日常経験を蓄積する小さく限られた空間／帰属感＝儀礼的言語の身体的な反復と共有　[Featherstone, ibid. p.92 参照]

生活意識[有賀吉左衛門]

地域振興政策

1950 年　　国土総合開発法

1960 年代　　地域振興全国プランの策定

1962 年 10 月　全国総合開発計画（一全総）池田勇人内閣「国民所得倍増計画」

大規模産業拠点の分散／地方拠点への労働力提供地としての農村部

→新産業都市（15 地域）と工業特別整備地域（6 地域）

1967 年　公文書に初めて登場した「過疎」という言葉

1969 年　新全国総合開発計画（二全総）

中央地帯＝都市型産業や管理機能／北東、南西地帯＝巨大産業基地と観光地

1970 年代　　新全国総合開発の時代

1972 年　　「日本列島改造論」田中角栄→ゴルフ場／中部山岳森林地帯の大規模開発

石油ショック　　農山漁村地域＝労働力供給源　→　都市住民の癒しの場所

1977 年 11 月　　第三次新全国総合開発計画（三全総）キーワード＝定住構想

山村／漁村／離島の振興＝レクリエーション開発

観光＝過疎化する村の救世主

1980 年代後半　リゾートブーム

1987 年 6 月　第四次新全国総合開発計画（四全総）

３つの目的＝民活のよる内需拡大／農業自由化による地域の振興／都市生活者に余暇供給

1987 年　総合保養地域整備法（リゾート法）

環境保全に関する規制の大幅な緩和／森林特措法による保安林解除／自然公園法を見直しによるスキー場、ゴルフ場、マリン施設の建設

1989 年末　全国土の 19.2%＝リゾート開発の対象地域

1990 年代前半バブル経済の崩壊

大規模リゾート計画は消える

1998 年 3 月　新・全国総合開発計画（五全総）「21 世紀の国土のグランドデザイン」

「新ふるさと産業システム」の創世

農林水産業をもとに産品の加工、サービス提供を含めた複合的な産業の育成

農山村のグリーンツーリズム／漁村のブルーツーリズム

■エスニック／ローカルの交差する共時的空間としてのミュージアムたち

アフリカンアートミュージアム

白浜アドベンチャーワールド

太地町立くじらの博物館

■参考文献

秋津元輝・中田秀樹、2003「開発の功罪――発展と保全の相克」古川彰・松田素二編『観光と環境の社会学』新曜社、188-210 頁。

Clifford, James, 1988, The Predicament of Culture: Twentieth-Century Ethnography, Literature, and Art, Harvard University Press.　クリフォード、ジェイムス、2003 年『文化の窮状――二十世紀の民族誌、文学、芸術』太田好信、慶田勝彦、清水展、浜本満、古谷嘉章、星の守之翻訳、人文書院。

Featherstone, Mike, 1995, Undoing Culture: Globalization, Post modernism and Identity, Sage Publications.　マイク・フェザーストーン、2009『ほつれゆく文化』西山哲郎／時安邦司訳、法政大学出版局。

福間良明「『異民族』の〈博覧〉――博覧会／博物館と『異文化理解』のポリティクス」阿部潔・難波功士編『メディア文化を読み解く技法――カルチュラル・スタディーズ・ジャパン』世界思想社 82－114 頁。

古川彰・松田素二、2003「観光という選択――観光・環境・地域おこし」古川彰・松田素二編 2003『観光と環境の社会学』新曜社、1-30 頁。

荻野昌弘、2005「民族の展示――植民地主義と博物館」山路勝彦・田中雅一編『植民地主義と人類学』関西学院大学出版会、375-390 頁。

吉田憲司、1999 年『文化の「発見」』岩波書店。

Macdonald, Aharon, ed., 2006, A Companion to Museuam Studies, Blackwell Publishing.